この添付文書をよく読んでから使用ください

体外診断用医薬品

製造販売承認番号21300AMY00495000

**2015年1月改訂（第5版）
*2013年4月改訂（第4版）

前立腺特異抗原・アルファ1－アンチキモトリプシン複合体キット

ケミルミ ACS - cPSA

■ 全般的な注意

・本品は体外診断用医薬品ですので、それ以外の目的に使用しないでください。
・本品の測定結果は、患者の治療歴、臨床症状その他関連する他の検査結果等を考慮して総合的に判断ください。
・添付文書に記載されている以外の使用方法については保証しません。
・使用する機器の添付文書及び取扱説明書をよく読んでから使用ください。
・適切な保護手袋、保護衣、保護用眼鏡及び顔防御マスクを使用し測定ください。

*■ 形状・構造等（キットの構成）

1. ケミルミACS-cPSA

基本試薬パック

構成試薬	内容量	成　分
標識試薬	10.0 mL	アクリジニウムエステル標識抗前立腺特異抗原ヤギポリクローナル抗体（略名：アクリジニウムエステル標識抗PSA抗体）
固相化試薬	25.0 mL	抗前立腺特異抗原マウスモノクローナル抗体結合磁性粒子（略名：抗PSA抗体結合鉄微粒子）

本キットにはcPSAマスターカーブカードが付属します。

2. 酸化剤/酸化補助剤（別売）

構成試薬	内容量	成　分
酸化剤	1500 mL/本	0.5% 過酸化水素 0.1N 硝酸
酸化補助剤	1500 mL/本	0.25N 水酸化ナトリウム

ADVIA Centaur CP用として、300mLがあります。

■ 使用目的

血清中の前立腺特異抗原・α1-アンチキモトリプシン複合体（PSA-ACT）の測定

■ 測定原理

本法では、検体中の遊離型PSAとの反応を防ぐため、検体を前処理剤と共にインキュベートし遊離型PSAは抗遊離型PSAマウスモノクローナル抗体にブロックされ、遊離型PSAは測定されません。その後、検体中のcPSA※を本品で測定します。本品の反応形式は、1ステップサンドイッチ法による化学発光免疫測定法で、一定量の2種の抗体を使用します。第1の抗体は、標識試薬中のアクリジニウムエステル標識抗PSA抗体です。第2の抗体は固相化試薬中の抗PSA抗体結合磁性粒子です。

※cPSA : Complexed-PSA、結合型PSA

**■ 操作上の注意

本品はケミルミADVIA Centaur® シリーズ（以下ADVIA Centaur シリーズ）の専用試薬です。

1. 測定試料の性質、採取法

本品の測定には血清を使用ください。
下記の記載内容はCLSI（Clinical and Laboratory Standards Institute）により推奨されている血液検体の取扱い、保存方法です[1]。それ以外の取扱い、保存方法については各施設で検討の上、使用者の責任において設定ください。

・静脈穿刺に関する感染予防措置を講じて、採血ください。
・検体が適切に凝固してから遠心分離ください。
・検体は常に栓をして立てた状態で保存ください。
・8時間を越えて室温に保存した検体は使用しないでください。
・8時間以内に測定が終了しない場合は、検体にしっかり栓をして2～8℃で冷蔵保存ください。
・48時間以内に測定を行わない場合は、－20℃以下で検体を凍結保存ください。
・保存検体は室温に戻してから使用ください。
・検体の凍結は1回限りとし、融解した検体はよく混和ください。

検体を機器に装填する前に下記の事項を確認ください。

・検体中には、フィブリンや浮遊物がないこと。浮遊物は遠心分離で除去ください（1000×g、15～20分間）。
・検体には気泡がないこと。

2. 妨害物質

・ヒト血清中の異好抗体は、試薬中の抗体と反応して、反応系を妨害することがあります[2]。動物や動物の血清に日常的に接触している患者では、この妨害が発生しやすく、測定結果が異常値を示すことがあります。診断にはさらなる情報を要することがあります。
・下記濃度の内因性物質による本品の測定結果への影響は、5%以下でした。

血清検体	濃度
溶血	500 mg/dL ヘモグロビン
脂肪血	1000 mg/dL トリグリセリド
黄疸	40 mg/dL ビリルビン
タンパク血症	12.5 g/dL タンパク質

化学療法剤、治療薬、腫瘍マーカー抗原による測定値の影響を調べるため、1.2～4.8 ng/mL（μg/L）のcPSAを含むプール血清に下表の物質を添加してACS:180®を用いて測定し、それぞれ薬剤や抗原が無いときの濃度を基準に平均回収率を算出しました。

添加物質	添加量（μg/mL）	平均回収率（%）（添加/コントロール×100）
シクロホスファミド	700	100
塩酸ドキソルビシン	51.8	101.8
メトトレキサート	22.72	89.4
酢酸メゲストロール	39.6	102.9
ジエチルスチルベストロール	5.0	96.6
ロイプロリド（LUPRON）	15.0	100.8
リン酸エストラムスチン	81.7	101.2
フルタミド（Eulexin）	10.0	100.4
フィナステリド（ブロスカー）	0.37	99.1
メシル酸ドキサゾシン（Cardura）	0.8	100

上記試験はCLSI EP7-A2[3]に従って実施されました。

3. 特異性

cPSAに既知の交差反応物質は報告されておりません。

**■ 用法・用量（操作方法）

操作法の詳細は機器の取扱説明書を参照ください。

1. 試薬の調製と取扱い

較正剤を除く試薬は全て液状のためそのまま使用ください。

(1) 基本試薬パックは機器に装填する前に手で混和ください。

(2) 試薬パックの底の微粒子が全て分散し、試薬パックの底に沈殿物が無いことを確認ください。

注意：

・機器に装填後28日を経過した試薬パックは廃棄ください。

・使用期限の過ぎた試薬は使用しないでください。

2. 必要な器具・器材・試料等

・ADVIA Centaur シリーズ

・ケミルミACS-cPSA前処理剤

・ケミルミACS-cPSA較正剤Y：アジ化ナトリウム（0.1％（溶解後、< 0.1%））含有

・特殊洗浄液1:アジ化ナトリウム(< 0.1%)含有(ADVIA Centaur CPのみ)

・ケミルミACS-共通希釈液2：アジ化ナトリウム（0.1％）含有

・ケミルミACS-cPSAコントロール：アジ化ナトリウム（< 0.1％）含有

3. 機器への装填

(1) 測定を開始する前に、機器に装填している試薬の量が測定に十分な量であることを確認ください。

(2) 基本試薬パックをラベルの端にある矢印に合わせて、試薬挿入部に装填ください。

注意：ADVIA Centaur CPではプローブは1つだけなので、基本試薬パックを左右と中央に配置する必要はありません。

(3) 装填後の試薬は、機器が自動的に攪拌するので、常に均一な懸濁液状に保たれています。

(4) ケミルミACS-cPSA前処理剤を補助試薬挿入部に装填ください。

注意：ケミルミACS-cPSA前処理剤は、固相化試薬と標識試薬に対応していません。ケミルミACS-cPSA前処理剤のロットは、異なるロットの固相化試薬や標識試薬と組み合わせて使用可能です。

(5) 検体を自動希釈する場合は、ケミルミACS-共通希釈液2を補助試薬挿入部に装填ください。

4. 較正間隔と装填後の安定性

本品の較正にはケミルミ ACS-cPSA 較正剤 Yを使用ください。使用方法についてはケミルミ ACS-cPSA 較正剤 Yの取扱説明書を参照ください。

機器装填後試薬（基本試薬パック）の安定性：28日
較正間隔　　：28日

以下の場合において低濃度及び高濃度較正剤による較正（2ポイントキャリブレーション）を実施ください。

・較正後、28日経過したとき

・基本試薬パックのロットが変更になったとき

・機器の部品を交換したとき

・精度管理の結果が繰返し期待値から外れるとき

5. マスターカーブの較正

・新しいロットの試薬（標識試薬、固相化試薬）を使用する際には、マスターカーブによって較正ください。

・ロットの変更ごとに、バーコードスキャナ又はキーボードで、試薬のマスターカーブ値を機器に入力ください。マスターカーブカードには、マスターカーブ値が記載されています。

・マスターカーブ値の入力方法の詳細については機器の取扱説明書を参照ください。

6. 検体量

1回の測定に必要な検体量は35μLです。この検体量には、検体カップ内の測定に使用できない量（dead volume）、2重測定や再測定等を実施する際にさらに必要となる量は含まれていません。最小必要量の測定の詳細に関しては機器の取扱説明書を参照ください。

7. 検体の測定

注意：ADVIA Centaur及びADVIA Centaur CPにおいては各ラックに異なるサイズの検体カップを装填しないでください。検体カップのサイズに合わせて、ラックインジケータを調整ください。ADVIA Centaur XP/XPTでは、異なるサイズの検体カップの装填が可能です。設定方法に関してはADVIA Centaur XP/XPTの取扱説明書を参照ください。

(1) 検体カップを準備し、所定の位置にバーコードラベルを貼付ください。

(2) ラックの溝からバーコードラベルがはっきり見えるように検体カップをラックに装填ください。

(3) ラックを検体挿入ラインに装填ください。

(4) 試薬が装填されていることを確認ください。

(5) 開始ボタンを押し、測定を開始ください。

8. 希釈方法

・測定結果が100ng/mL（100μg/L）を超える場合は、正しい結果が得られるように希釈をしてから再測定ください。

・機器による自動希釈又は用手法による希釈のいずれも可能です。

・自動希釈の場合、ケミルミACS-共通希釈液2を装填し、以下のとおりにパラメーターを設定ください。

Dilution point：≦100ng/mL（μg/L）
Dilution factor：2, 5

自動希釈の設定方法に関しては、機器の取扱説明書を参照ください。

・自動希釈の測定結果が測定の直線性を超えた場合や、検査室で用手法による希釈を規定している場合は、用手法により検体を希釈ください。

・用手法で検体を希釈する場合は、ケミルミACS-共通希釈液2を用いて希釈し、機器に装填されている希釈前の検体と交換してサンプルラックに装填ください。

・希釈した検体の測定結果が計算上およそ正しい値であるかを確認ください。機器に予めDilution factorを設定入力した場合は、自動的に測定結果が算出されます。

注意：自動希釈に必要な検体量は、1回の測定に必要な検体量と異なります。

自動希釈に必要な検体量については、次の情報を参照ください。

希釈率	検体量（μL）
2倍	75
5倍	30

9. 精度管理

精度管理の頻度については、行政当局の規制や許可条件に従ってください。コントロール値の入力方法を含めて精度管理の詳細については、機器の取扱説明書を参照ください。
機器の性能や測定値の傾向を管理するため、最低限の要求事項として、測定実施日ごとに2濃度（低濃度・高濃度）の精度管理用コントロールで精度管理を実施ください。較正（2ポイントキャリブレーション）を実施する際にも精度管理用コントロールを測定ください。精度管理用コントロールは全て患者検体と同様に取扱いください。
本品の精度管理用コントロールには、ケミルミACS-cPSAコントロール又はその性能が保証できる同等のコントロールを使用ください。コントロールの期待値については参考値表を参照ください。
精度管理の結果が期待値あるいは検査室で設定した値の範囲から外れる場合は、測定結果をそのまま報告せず、次の操作を行ってください。

・試薬等の使用期限が切れていないか確認ください。

・必要な保守点検が行われたか確認ください。

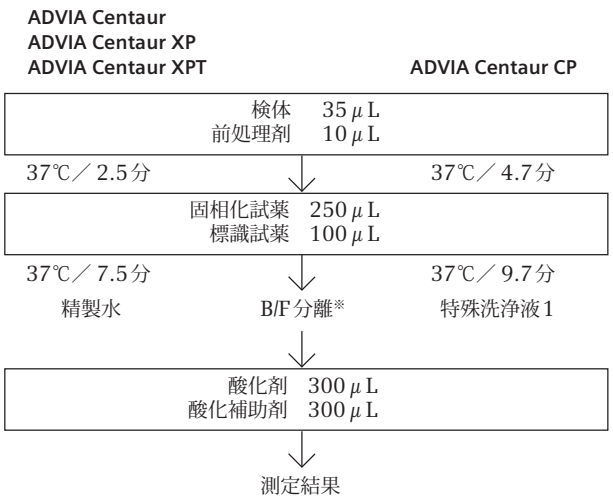
・機器の取扱説明書や本添付文書の手順に従って測定されたか確認ください。

・新しいコントロールで再測定ください。

・必要に応じて、当社に連絡ください。

10. 測定方法

検体の測定方法及び測定結果の算出方法の詳細については、機器の取扱説明書を参照ください。
機器により、次の動作が自動的に実行されます。



※B/F分離とは、抗原抗体複合体（B,bound）と未反応の標識体（F,free）を分離することです。

注意：精製水の情報については機器の取扱説明書を参照ください。

患者検体中のcPSA量と機器によって検出されるRLUs（相対的発光量）の間には、正の相関関係があります。

■ 測定結果の判定法

測定結果の算出方法の詳細については、機器の取扱説明書を参照ください。

1. 結果の判定法

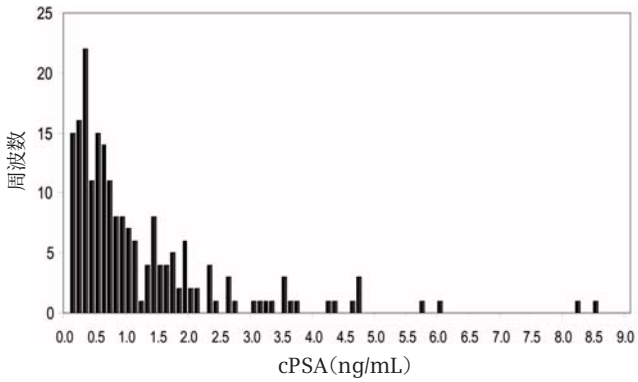
機器は、cPSAの結果を測定の設定時に規定した単位に応じてng/mL（慣用単位）又はμg/L（SI単位）で報告します。

換算式は1ng/mL=1μg/Lです。

2. 参考基準範囲

・製造元においてACS:180®cPSAを使用し、参考基準範囲を設定しました。測定結果は42歳から92歳までの健常男性199例から得られ、以下のグラフのとおりでした。PSA値は年齢と共に増加する傾向にあります。

健常男性のcPSA分布



前立腺癌の検出における参考基準範囲

下表は米国大陸部の5臨床施設で得られた50歳以上の男性504患者検体より得られました。このコホートにおける合計有病率は45.5%でした。表1及び表2は、超音波下6箇所生検で6コアを超える前立腺癌が見つかるリスクを示し、このリスクをcPSA値で階層化します。表1は、直腸診（DRE）で癌の疑いのなかった（DRE陰性）男性のリスクを示しています。表2は、直腸診で癌の疑いのあった（DRE陽性）男性のリスクを示しています。

表1 陽性生検結果の確率DREで癌の疑いなし

cPSA(ng/mL)	症例数	癌数	リスク(%)	95%信頼区間
< 3.6	147	40	27.2	20.8～35.1
3.6～5.0	89	35	39.3	30.2～50.2
> 5.0	119	61	51.3	42.7～60.5

DREのみ陰性の場合の陽性生検結果の確率は38.3%（136/355; 95%信頼区間33.5～43.6%）でした。

表2 陽性生検結果の確率DREで癌の疑いあり

cPSA(ng/mL)	症例数	癌数	リスク(%)	95%信頼区間
< 3.6	70	37	52.9	41.9～64.9
3.6～5.0	29	17	58.6	42.3～76.5
> 5.0	50	39	78.0	66.3～88.5

DREのみ陽性の場合の陽性生検結果の確率は62.4%（93/149；95%信頼区間54.8～70.2%）でした。

・国内において検討した結果 、参考基準範囲及びカットオフ値（前立腺癌と良性前立腺疾患との鑑別値）は以下のとおりでした[4]。

参考基準範囲：3.4ng/mL以下
カットオフ値：7.0ng/mL以下

他の検査薬と同様に、参考基準範囲は各施設において設定ください[5]。

3. 判定上の注意

・高濃度フック現象

本測定において、cPSA値が8,000 ng/mL（μg/L)(ADVIA Centaur CPの場合、7,500 ng/mL（μg/L)）を超えた場合でも、RLUs（相対的発光量）の異常な減少はみられませんでした。

警告：疾患の再発を連続cPSA測定値のみで予測しないでください。

・cPSAレベルのみで、悪性疾患の診断をしないでください。前立腺癌と診断された患者の治療前の測定値が、正常参考値内に入ることはよく見られます。cPSA濃度の増加は、良性疾患患者でも見られることがあります。cPSAの測定結果は、患者の臨床所見も含め、常に他の診断方法と併せて総合的に用いてください。

・製造業者が異なる場合、測定法、較正、試薬特異性が異なるため、検体中のcPSA濃度が変動する可能性があります。製造業者が異なる測定法で判定したcPSA値は、標準化法や抗体特異性によっても変化します[6]。従って、測定法に特異的な値でコントロール結果を評価することが重要です。検査結果は、使用したcPSA測定系を含めて報告ください。異なる測定方法で得られた値を一緒に用いないでください。患者を継続してモニターしている途中でcPSA測定方法を変える際は、その施設にてベースライン値の確認試験を実施ください。

・抗アンドロゲン剤やLHRH作用薬及び拮抗薬で治療中の前立腺癌患者は、cPSA濃度が顕著に下がることがあります。これらの被験者の値の判定時には注意ください。

**■ 性能

1. 測定範囲

0.03～100ng/mL（μg/L）

2. 性能

用法及び用量欄の操作方法により、感度・正確性・同時再現性の各試験を行った場合、下記の規格値に適合します。

（1）感度試験

①標識試薬の総カウント（T）に対する低濃度の較正剤（前立腺特異抗原濃度 0ng/mL）を試料として操作した場合のカウント（B.low）の百分率（B.low/T）（%）は0.1%以下です。

②高濃度の較正剤（前立腺特異抗原濃度 54～75ng/mL）を試料として操作した場合のカウント（B. high）に対する低濃度の較正剤を試料として操作した場合のカウント（B.low）の百分率（B.low/B.high）（%）は0.9%以下です。

※カウントとは、標識したアクリジニウムエステルが酸化する際の化学発光により生じた光子を光電子増倍管で測定するときの単位です。

（2）正確性試験

3種の管理血清の前立腺特異抗原濃度を測定するとき、あらかじめ定められた値に対し、±20%の範囲に入ります。

（3）同時再現性試験

同一の管理血清の前立腺特異抗原濃度を3回同時に測定する時、濃度のC.V.値は15%以下です。

3. 相関性

・ADVIA Centaur/XP/XPT

cPSA濃度0.09～84.80ng/mL（μg/L）の279検体におけるADVIA Centaurによる本品の測定値（以下ADVIA Centaur cPSA）とACS:180®の測定値（以下ACS:180 cPSA）との関係は以下の計算式で示されます。

ADVIA Centaur cPSA = 0.96（ACS:180 cPSA）– 0.13ng/mL
相関係数（r）= 0.992

Deming 測定方法比較統計

	係数	標準誤差	95% CI
切片	-0.1341	0.1997	−0.5272～0.2591
傾き	0.9615	0.0071	0.9475～0.9755

・ADVIA Centaur CP

（1）cPSA濃度0.04～94.82 ng/mL（μg/L）の345検体におけるADVIA Centaur CPによる本品の測定値（以下ADVIA Centaur CP cPSA）とACS:180 cPSAの測定値との関係は以下の計算式で示されます。

ADVIA Centaur CP cPSA = 0.95（ACS:180® cPSA）+ 0.32ng/mL
相関係数（r）= 0.99

Deming 測定方法比較統計

	係数	標準誤差	95% CI
切片	0.333	0.1465	0.0351～0.6115
傾き	0.9495	0.0052	0.9393～0.9597

（2）cPSA濃度0.04～99.23ng/mL（μg/L）の363検体におけるADVIA Centaur CP cPSAの測定値とADVIA Centaur cPSAとの測定値との関係は以下の計算式で示されます。

ADVIA Centaur CP cPSA = 1.01（ADVIA Centaur cPSA）+ 0.26ng/mL
相関係数（r）= 0.99

Deming 測定方法比較統計

	係数	標準誤差	95% CI
切片	0.2564	0.1102	0.0397～0.4731
傾き	1.0092	0.0042	1.0010～1.0174

4. 希釈回収試験

・ADVIA Centaur/XP/XPT

cPSA濃度が11.27～45.96ng/mL（μg/L）のヒト血清6検体を、ケミルミACS-共通希釈液2を用いて2倍、5倍、8倍に希釈し、回収率と希釈直線性を試験しました。回収率は89.9～111.5%で、平均値は101.6%でした。

・ADVIA Centaur CP

cPSA濃度が20.91～29.43ng/mL（μg/L）のヒト血清6検体を、ケミルミACS-共通希釈液2を用いて2倍、4倍、8倍に希釈し、回収率と希釈直線性を試験しました。回収率は100.0～118.2%で、平均値は105.1%でした。

5. 添加回収試験

・ADVIA Centaur/XP/XPT

<0.03～0.04ng/mL（μg/L）の内因性cPSAを含むヒト血清6検体に、8.91～24.66ng/mL（μg/L）のcPSAを添加しました。参考基準範囲と比較したところ、回収率は89.2～107.8%で、平均値は97.8%でした。

・ADVIA Centaur CP

0.31～1.55ng/mL（μg/L）の内因性cPSAを含むヒト血清6検体に、10.0～25.0ng/mL（μg/L）のcPSAを添加しました。参考基準範囲と比較したところ、回収率は89.5～108.2%で、平均値は97.1%でした。

6. 精度

・ADVIA Centaur/XP/XPT

6検体について、3重測定で8回、3日間にわたり、4台の機器を用いて測定を行ったところ（各検体n=24）、下記の結果が得られました。

平均 ng/mL（μg/L）	同時再現性 CV(%)	測定間再現性 CV(%)	総 CV(%)
3.61	2.0	1.7	2.6
4.22	2.7	0.8	2.8
12.35	2.4	1.5	2.9
16.70	2.5	0.7	3.0
65.49	2.2	1.2	3.5
80.13	3.3	0.0	3.5

・ADVIA Centaur CP

CLSI EP5-A2[7]に従い、1台の機器で、1試薬ロットを用いて、20日間にわたり1日1回測定を行いました。機器は初日の初回測定直前に較正しました。測定結果は、低・高濃度較正剤による較正で計算し、次の結果が得られました。

平均 ng/mL（μg/L）	同時再現性 CV(%)	測定間再現性 CV(%)	総 CV(%)
1.90	3.7	4.3	5.7
3.08	2.2	4.0	4.6
4.01	2.9	4.0	4.9
14.80	3.6	5.4	6.5
49.41	3.6	5.7	6.7
65.70	3.5	6.1	7.0

7. 分析感度

本法による測定範囲上限は100ng/mL（μg/L）です。分析感度は、cPSAゼロスタンダードを20重測定したときの平均RLUs+2SD（標準偏差）に相当するcPSA濃度と定義されます。

8. 標準物質のトレーサビリティ

本品は、高純度PSA-ACTを用いて製造された社内標準物質にトレーサビリティを有しています。本品の較正剤及びコントロールの値はこの標準化にトレーサビリティを有しています。

**■ 使用上又は取扱い上の注意

1. 取扱い上の注意

・検体及びヒト由来成分を含む試薬は、HIV、HBV、HCV等の感染の恐れがあるものとして取扱ってください。検査にあたっては感染の危険を避けるため使い捨て手袋を着用し、また口によるピペッティングを行わないでください。

・酸化剤は酸性溶液（pH<2）、酸化補助剤はアルカリ性溶液（pH13）です。使用に際しては、試薬が直接皮膚に付着したり、目に入らないように注意ください。

・試薬が誤って目や口に入った場合には、水で十分に洗い流す等の応急処置を行い、必要があれば医師の手当等を受けてください。

・ケミルミACS-cPSA較正剤Y、特殊洗浄液1、ケミルミACS-共通希釈液2及びケミルミACS-cPSAコントロールには保存剤としてアジ化ナトリウム等が含まれていますので、誤って目や口に入ったり、皮膚に付着したりした場合は、水で十分に洗い流す等の応急措置を行い、必要があれば医師の手当て等を受けてください。

・本品は動物由来成分を含むので潜在的感染性のあるものとして取扱いください。

2. 使用上の注意

・試薬は立てた状態で2～8℃で保存ください。

・試薬パックは全ての熱源及び光源を避けてください。機器に装填した試薬は遮光されます。未使用の試薬は熱源及び光源を避け、2～8℃で保存ください。

・基本試薬パックは、機器に装填する前に手で混和ください。

・パックの底の微粒子が全て分散し、試薬パックの底に沈殿物が無いことを確認ください。

・使用期限を過ぎた試薬は使用しないでください。

・同一ロットであっても、試薬の注ぎ足しはしないでください。

・未開封の試薬は下表に記載されている貯法において、ラベルに記載されている使用期限まで使用できます。開封後・調製後の安定性と保存条件は次の通りです。ただし、各バイアルに記載した使用期限内に使用ください。

試　薬	貯法	機器装填後の安定性
ケミルミACS-cPSA前処理剤	2～8℃	使用開始から41日間 （ADVIA Centaur CPは60日間）
ケミルミACS-共通希釈液2	2～8℃	使用開始から28日間

・cPSA値が低濃度で再現性が良好でない場合や、測定結果が良好でない場合は、次の手順を確認ください。

　・試薬及び較正剤のロット番号と使用期限が、機器に入力された値と一致することを確認ください。

　・較正剤、精度管理用物質、試薬が正しい手順に従って調製されたことを確認ください。

　・正しい手順に従って検体が採取され、取扱われたことを確認ください。

　・正しい手順に従って機器がクリーニングされたことを確認ください。

　・ADVIA Centaur機器の操作工程において精製水が使用されていることを確認ください。

注意：精製水の情報については機器の取扱説明書を参照ください。

・プローブやチューブが詰まっていないか、漏れていないか、はさまったり曲がったりして変形していないか目視確認ください。

・各検査室で検証済みの手順に従って、その他のメンテナンスを行ってください。

・新しい試薬、較正剤、精度管理用検体を使って機器を較正ください。

・技術的な問題がある場合は、当社に問い合わせください。

3. 廃棄上の注意

・医療廃棄物等は、各検査室の基準に従って廃棄ください。試薬や測定後の廃棄物は、国や地域と各検査室の基準に従って廃棄ください。

・廃液、検体等が付着した器具等は、次亜塩素酸ナトリウム（有効塩素濃度1,000ppm、1時間以上浸漬）又はグルタールアルデヒド（2%、1時間以上浸漬）による消毒処理あるいはオートクレーブ（121℃、20分以上）による滅菌処理を行ってください。

・保存剤として試薬に含まれるアジ化ナトリウムは鉛管、銅管と反応して爆発性の強い金属アジドを生成することがあるため、廃棄の際は各法令に従い多量の水と共に流してください。

・試薬類や廃液などが飛散した場合には、拭き取りと消毒を行ってください。

■ 貯蔵方法・有効期間

1. 貯蔵方法
   （1）標識試薬、固相化試薬：2～8 ℃で保存
   （2）酸化剤、酸化補助剤：4～25℃で保存
2. 有効期間
   （1）標識試薬、固相化試薬：1年
   （2）酸化剤、酸化補助剤：1年6ヶ月

**■ 包装単位

ケミルミACS-cPSA　100テスト用　品目コード：06684007（124830）
基本試薬パック（標識試薬/固相化試薬）1本

〈別売〉

酸化剤/酸化補助剤
5000テスト用、各1500 mL/本　品目コード：03852677（112219）
（ADVIA Centaur/XP/XPT用）
1000テスト用、各300 mL/本　品目コード：00497043
（ADVIA Centaur CP用）

ケミルミACS-cPSA前処理剤　品目コード：09702804（125308）
1×5mL（500テスト用）

ケミルミACS-cPSA較正剤Y　品目コード：02614268（125014）
（低濃度較正剤/高濃度較正剤）各2バイアル

特殊洗浄液1
2×2500 mL（ADVIA Centaur/XP/XPT/CP用）品目コード：03773025
2×1500 mL（ADVIA Centaur/XP/XPT/CP用）品目コード：01137199（112351）

ケミルミACS-共通希釈液2
2×10 mL（自動希釈用）　品目コード：07948423（110314）

ケミルミACS-cPSAコントロール　品目コード：02508026（125425）
1×2 mL コントロール1
1×2 mL コントロール2
1×2 mL コントロール3

**■ 主要文献

1. Clinical and Laboratory Standards Institute (formerly NCCLS). *Procedures for the Handling and Processing of Blood Specimens; Approved Guideline - Third Edition*. Wayne, PA: Clinical and Laboratory Standards Institute; 2004. NCCLS Document H18-A3.
2. Boscato LM, Stuart MC. Heterophilic antibodies: a problem for all immunoassays. Clin Chem 1988;34:27–33.
3. Clinical and Laboratory Standards Institute (formerly NCCLS). *Interference Testing in Clinical Chemistry; Approved Guideline - Second Edition*. Wayne, PA: Clinical and Laboratory Standards Institute; 2005. NCCLS document EP7-A2.
4. 大野明美他：「ケンタウルスにおける Complexed PSA 測定試薬「ケミルミ ACS-cPSA」の基礎的、臨床的有用性についての検討」、医学と薬学 49 (2), 2003.
5. Clinical and Laboratory Standards Institute (formerly NCCLS). *How to Define and Determine Reference Intervals in the Clinical Laboratory; Approved Guideline - Second Edition*. Wayne, PA: Clinical and Laboratory Standards Institute; 2000. NCCLS Document C28-A2.
6. Graves HCB, Wehner N, and Stamey TA. Comparison of a polyclonal and monoclonal immunoassay for PSA need for an international antigen standard. J. Urol 1990;144:1516.
7. Clinical and Laboratory Standards Institute (formerly NCCLS). *Evaluation of Precision Performance of Quantitative Measurement Methods; Approved Guideline - Second Edition*. Wayne, PA: Clinical and Laboratory Standards Institute; 2004. NCCLS Document EP5-A2.

*■ 問い合わせ先

シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社
カスタマーケアセンター
電話：03-3493-8400

*■ 製造販売元

シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社
東京都品川区大崎1-11-1　ゲートシティ大崎ウエストタワー

輸入

ADVIA Centaur と ACS:180 は Siemens の商標です。